

有機栽培の露地ナス・キュウリの害虫をネットで防ぐ

有機栽培の露地ナス・キュウリほ場を目合いのやや大きなネットで覆うことによりヨトウガ等の大型害虫の侵入を防ぎつつ、アブラムシ等の微小害虫は、ネットの網目から侵入する土着天敵で防除できることが判りました。

当センター野菜科の有機栽培露地ほ場（約30a）等において、ナスとキュウリの大型害虫による葉や果実への食害を防ぐため、平成25-27年に表1に示した目合いのネットでほ場全体を図1のように覆い、害虫等の発生及び被害状況を調査しました。

なお、防風と天敵温存のため、ほ場外周の半分をソルガム（5月中旬播種）で囲いました。

【試験結果】

表1に示した大型害虫は、ネット内での発生が認められず、侵入ができないと考えられました。アブラムシ類は発生の多い時期がありましたが、ほ場周辺からネット内に侵入した土着天敵に捕食又は寄生され、果実や葉への被害は最小限に抑えられました。

一方、ナスではカスミカメ類による新梢の被害に加え、8月下旬以降のチャノホコリダニによる果実被害は無被覆とほぼ同様に発生しました。

今後は、ネットの設置時期やほ場内外の植生管理方法の検討、有機JASで認められている農薬・市販天敵等による防除により、有機露地栽培のナス・キュウリの安定生産方法を構築していく予定です。

表1 各目合いでネット内への侵入を防げると考えられる害虫

目合い (mm)	作物	害虫名
3.6×3.6	ナス	ホオズキカメムシ, メンガタズメ, ハスモンヨトウ, ナミヨトウ
3.6	キュウリ	ワタヘリクロノメイガ, ウリキンウワバ
2×6	ナス	ニジュウヤホシテントウ, ヨトウガ類
2×6	キュウリ	ウリハムシ

注：太字はほ場試験により確かめられた害虫。



図1 ネットの設置状況